

令和4年度 第1回 公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会 議事録

開催日	令和4年7月25日（月）	
開催時間	13時30分～16時	
開催場所	佐賀市立東与賀文化ホール ミーティング室	
出席者	委員	富吉委員長、石丸委員、重松委員、多良委員、 納富委員、松本委員、園田委員
	公益財団法人佐賀市文化振興財団	梅崎常務理事、宮崎事務局長、福地管理課長、 木塚事業課長、河原東与賀文化ホール課長
	事務局	宮崎地域振興部長、小林歴史・文化課長、 野田副課長、塩田主任
議事	<ul style="list-style-type: none"> ・副委員長選出 ・議事 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己評価（文化振興財団） 2) 質疑応答 3) 採点 4) 集計 5) 総合評価・意見交換 	
欠席委員	福成委員	
傍聴者	なし	
報道関係者	なし	

【会議の公開・非公開】

○事務局

佐賀市では審議会や委員会等は、個人や団体の不利益になる場合や、会議の運営に支障が出る場合を除き、原則公開としている。公開と決定されれば会議の傍聴を認め、会議録の要約を市のホームページで公開させていただく。異議がなければ、原則どおり公開とさせていただきたいが、よろしいか。

○委員

（はい）

【副委員長選出】

○事務局

公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会設置要綱により、副委員長については委員長が指名するとしている。前回の評価委員会において、富吉委員長から石丸委員に副委員長の指名があったが、石丸委員が欠席のため、今回の委員会で石丸委員の意思確認を行うこととした。石丸委員は副委員長をお引き受けいただけるか。

○石丸委員

（引き受ける。）

◎ (1) 自己評価 (文化振興財団)

○財団

1) 施設管理に関すること

・新型コロナウイルス感染症の影響で文化会館は中止が 163 件、日程変更が 12 件、予定利用料金が約 3,086 万円、予定入場者数が約 82,900 人の減、東与賀文化ホールは、中止が 14 件、日程変更が 3 件、予定利用料金が約 89 万円の減、予定入場者数が 2,900 人の減となった。

・文化会館の利用者数は前年度に比べて 72,138 人増の 173,804 人で目標 400,000 人の 43.45%、稼働率は目標の 72%に対して 54.24%で、令和 2 年度よりは少ないものの新型コロナウイルス感染症の影響があり、催物が中止、日程変更になったことによる。東与賀文化ホールの利用者数は昨年度に比べて 6,801 人増の 30,147 人、目標 36,000 人に対して 83.74%、稼働率は目標の目標 38.80%に対し 49.73%で目標に達している。また、工事の関係で 9 月の利用者は 0 であった。

・保守点検や修繕等は確実に実施し安全確保に努めた。

・新型コロナウイルス感染症対策として、ガイドラインに沿った運用と利用者への注意喚起を継続して行った。文化庁の補助金を活用して、赤外線カメラの増台、自動消毒機と CO2 濃度測定器などを新たに導入した。

・情報提供は、特にフェイスブックでは感染症対策や出演者ページのシェアなどにより、閲覧数を伸ばすことができた。また紙面媒体では、新風や市内のフリーペーパーなどに加え、佐賀市出身の宝塚歌劇出演者の取材を新聞記事で取り上げてもらうなどの情報発信を行った。下半期については、テレビ告知も含めて積極的に広報を行った。

2) 文化事業に関すること

・文化会館の文化事業は体験活動事業 3 企画 (6 公演) 実施、アウトリーチ 9 カ所 (10 公演) 実施、3 カ所 (4 公演) 中止、主催事業 14 企画 (15 公演) 実施、1 企画 (1 公演) 中止した。

・東与賀文化ホールの文化事業は、体験活動事業 2 企画 (4 公演) 実施、アウトリーチ 1 カ所 (4 公演) 実施、主催事業 12 企画 (16 公演) 実施した。

・10 月までは定員を 50%に制限したが、11 月 1 日からはガイドラインに沿って 100%の定員で公演を実施した。

・文化会館では音楽、舞踊などのジャンル以外で初めて書道のワークショップを行った。

・地元の演奏家や地元出身の人形劇団を起用して公演を行った。佐賀市民芸術祭では中学・高校の吹奏楽部へ出演を依頼し、同時視聴ができるよう動画配信を行った。

3) 財務に関すること

・利用料金収入は、新型コロナウイルス感染症の影響で文化会館は目標の 80.85%の 91,300 千円となった。東与賀文化ホールは 5,531 千円で目標の 120.24%となった。

・日程の延期や会場の見直し等により、入場者数、稼働率の減少を抑えた。

・オフィシャルパートナーは昨年に引き続き 11 社であった。

・文化庁の感染症予防対策事業補助金 125 万円と、同庁の文化芸術活動支援事業補助金 1,473 万円を受けた。東与賀文化ホールでは(一財)地域創造の助成金を受けて 10 月に公演とアウトリーチを実

施した。

- ・佐賀市が実施する文化芸術活動支援事業を受託し、施設利用者の確保に努めた。
- ・前年度に引き続き臨時職員1名減を継続して、人件費の抑制に努めた。
- ・適切な空調管理などで、電気使用量の省エネルギーに努めた。

◎ (3) 質疑応答

○委員

文化会館や東与賀文化ホールで実施した事業で、そこから新型コロナウイルス感染症のクラスターが出たという事例はないか。

○財団

出ていない。

○委員

令和3年度の計画を策定する際に、新型コロナウイルス感染症がまた拡大した場合の具体的な代替案は考えていたのか。

○財団

令和3年度は新型コロナウイルス感染症が終息するものとして事業計画を策定していた。出演者の出演可否の連絡が公演の直前にあったり、集客・収益の状況、収容率の制限等で公演時期、公演内容を設定したのもあったりした。小規模のものを小分けにして実施するなどは、実施の段階で計画はできていなかった。依然として新型コロナウイルス感染症がある状況であるため、委員の意見も頭に留め置いて計画を検討する。

○委員

音楽専用のホールでないのであれば、たとえば東与賀文化ホールの客席を収納して平土間にし、文学カフェのような企画を行うといった発想はなかったのか。

○財団

東与賀文化ホールではこれまでクラシックの演奏がなかなか実施できておらず、財団で反響板を組んだクラシック演奏を実施し、音響的に評価を得られたところであったため、クラシック演奏等を中心とした事業計画を立てていた。平土間を活かした企画や多目的な使用の検討も今後の課題としたい。

○委員

コロナの影響で非常にみんなが閉塞的な状況になっている。こういう状況だからこそ、佐賀市に相談して、今年一年は収益や事業目標は置いておいても市民の心を豊かにするような取り組みをやってみませんかとかはできなかったのか。

○委員

普通の生活、特に子供たちが普通に学校に行って、普通に友達と遊ぶということができない中で、自分がため込んでいるものを発散してだれかと共有するという体験がすごく大事じゃないかということはこの2、3年で感じている。演者やアーティストといった作る側もめげるような気持ちにならざるを得ない状況がずっと続いているが、客の求める気持ちも大きくなっているのではないかと思っている。

○委員

退職給付引当金の令和3年度目的使用で3,800万円使用したとなっているが、何名か職員が退職して退職金を払ったということか。

○財団

2名退職した。

○委員

新たに2名採用したのか。

○財団

採用はしていない。

○委員

それでは令和4年度からは純粋に減少しているということか。

○財団

正職員としては1名採用し、退職は2名だった。ただ65歳、70歳までの雇用の確保があり、給与関係は6割前後になった形で定年後の再雇用を行っているため、財政的には減って、職員数としては1名増となっている。ただし再雇用であるため会計上には表示されていない。

○委員

修繕について、佐賀市が行うものと別に指定管理の契約上財団が行うようになっているのか。

○財団

面積等を勘案して年額として修繕費の予算立てを行っている。個別の故障や修復は財団の修繕費を用い、大規模なものについては市に相談し、修繕・改修の検討をしてもらっている。

○委員

予算ぎりぎりまで軽微なものは財団が修繕するというので、予算をほぼ使ってしまったいて、必要なものはペンディング（保留）なく修繕できているという認識でよいか。

○財団

緊急を要するもの、次の利用に差し支えるものについては当然至急改修、現状復旧をしなければいけないが、可能であれば修繕したいというものは予算を見ながら次年度に繰り越すなども行っている。

予算を超えてということもなくはないが、予算を見ながら全体の修繕計画を立てて行っている。

○委員

光熱費の削減について、自己評価では削減となっているが、財務諸表では増えている。イベントの増加により光熱費は増えたが、実際にはより効率よくなったという認識でよいか。省エネに努めたという意識の評価か。

○財団

電気については、節電も行っているものの、特に文化会館では舞台での使用が主であり、施設の利用状況の回復により令和2年度より使用料が増加している。ガスについては文化会館の空調が熱源として使用しているが、施設利用状況や温度などに応じて希釈するなどの運転管理を行っている。

○委員

市民芸術祭の動画のアーカイブに対して感想や評価など反響はあったのか。また視聴回数は今後も増えていくのか。

○財団

同時配信の際は「久しぶりに遠くで視れてありがたかった」や、「自分のいた学校や在籍していた団体が元気に演奏しているのが視れて楽しかった」というコメントがあったが、アーカイブにはコメントされていない。現在もアーカイブ動画の視聴ページは残しているため視聴回数は若干であるが増え続けている。

◎ (4) 採点、(5) 集計、(6) 総合評価・意見交換

○委員

オフィシャルパートナーは毎年継続を依頼しているのか。新規開拓はどのように行っているのか。

○財団

継続については毎年度依頼に伺っている。新規の企業については、対応している企業も含め、いろいろな業種の企業があるため、常務理事、課長等アンテナを張っている。

○委員

新規に依頼しにいくとなれば、委員が橋渡しをするにしても、どのような企業がいいのか。

委員が紹介したことで依頼に行かれたところもあった。

○地域振興部長

最近の元気な企業ということで委員に紹介いただき、財団が伺った企業もある。

財団が一番頑張ってもらわないといけないが、もし委員にここぞという企業を紹介いただけるのであれば非常にありがたい。

○委員

オフィシャルパートナーの助成金額はどのように分かれているのか。

○財団

オフィシャルパートナーの助成金額は10万円、25万円、50万円から選んでいただいている。

○委員

金額によってなにか条件があったりするのか。

○財団

チラシ、情報誌新風にはオフィシャルパートナーの名前はほぼ載せている。新聞の広告の際も、載せられる場合は必ずオフィシャルパートナーの名前を載せている。

オプションとして会館が発行する情報誌新風にオフィシャルパートナーのチラシ等をポストインできるというものがある。また、公演の会場や内容を確認いただくという趣旨で、招待券を渡しているが、そこで金額に応じて少しずつ差をつけさせていただいている。

○委員

財団の評価項目が、文化事業や施設管理等、財務に関する事で作られているが、可能であれば情報収集と情報分析、情報をいかに取り入れて利活用、活性化につなげていくかということ積極的に取り入れていただければと思う。情報を集めることで新しい次の手を一歩先に打つなどできると思う。九州圏内の音楽ホール等の利活用状況が全国紙(演奏年鑑2019-音楽資料-公益社団法人日本演奏連盟、西田紘子著)で紹介されたが、佐賀の取り組みは出てこなかった。自信をもって情報を発信できる事業の取り組みを、委員を含め一緒に作っていかれたらと思う。

◎自己評価（文化振興財団）

《 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 自己評価表 》 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 R3年度実績

◎判定の基準
【A】 高い成果を収めている **【B】** 概ね良好な成果を収めている **【C】** 向上の余地がある。 **【D】** 見直しが必要である **【E】** 抜本的な見直しが必要である

評価項目		評価資料Ⅱ	自己評価	コメント(評価の理由等)
1)施設管理に関すること				
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	P19,20,25～27	B	適切な保守点検、修繕を実施し、利用者の安全確保に努めた。新型コロナウイルスについては、赤外線カメラの追加や自動消毒器、CO2測定器等を導入し利用者の安全に務めた。その他文化会館では、佐賀市施工の西側外階段タイル張替工事を令和4年7月まで実施。SAGAサンライズパーク整備に係るペDESTリアンデッキ設置工事、合わせて西側広場改修工事と駐車場整備工事を令和4年度中終了予定で実施。
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	P1～7		文化会館については利用者数・稼働率ともに新型コロナウイルスの影響で目標に届かなかった。東与賀文化ホールにおいては利用者数が新型コロナウイルスの影響で目標に届かなかった。昨年に比べると利用は回復傾向にあり、文化会館では催物の中止が397件から163件、東与賀文化ホールでは53件から14件と大幅に減っている。
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	P23		フェイスブックにおいて、感染症対策のガイドラインや出演者ページのシェアなどで更新頻度を保つよう努めた。紙面媒体では、佐賀市出身の宝塚歌劇出演者を事前取材と公演日取材を記事として取り上げ情報発信を行った。下半期はテレビ、ラジオの電波媒体による告知も実施した。
2)文化事業に関すること				
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	P8～15	B	文化会館では、体験活動事業3企画(6公演)実施、アウトリーチ9カ所(10公演)実施、3カ所(4公演)中止、主催事業14企画(15公演)実施、1企画(1公演)中止した。東与賀文化ホールでは、体験活動事業2企画(4公演)実施、アウトリーチ1カ所(4公演)実施、主催事業12企画(16公演)実施した。10月までは定員を50%に制限していたが、11月1日からガイドラインに沿って100%の定員で公演を実施した。入場については感染症対策を万全にして行った。
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	P8～15		新型コロナウイルス感染症により老健施設や介護施設でのアウトリーチは令和3年度実施できなかった。公民館や老人福祉センター、児童センターといった地域コミュニティを目的とした会場ではアウトリーチを実施することができた。東与賀文化ホールでは、佐賀県高等学校文化連盟演劇専門部と共催により高校演劇部の発表機会を提供した。
⑥	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	P8～15		文化会館では体験活動事業3企画(6公演)実施、アウトリーチ9カ所(10公演)実施、3カ所(4公演)中止、東与賀文化ホールでは体験活動事業2企画(4公演)実施、アウトリーチ1カ所(4公演)実施した。アウトリーチではプロマリンバ奏者やピアニストを小学校に派遣して間近で演奏を聴き、演奏家の体験を話してもらった。ワークショップでは世界的な打楽器奏者が講師となり、世界各地の打楽器に触れて実際に演奏する機会をつくり、多様な文化に触れる機会を提供した。
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	P8～15		文化会館ではワークショップで音楽や舞踊以外で初めて書道を実施し、佐賀北高書道部OBによる実演と指導をしてもらった。アウトリーチでは中央からの招聘アーティストだけではなく、地元の演奏家を起用して公演を実施し、東与賀文化ホールでは地元出身の人形劇団を起用して公演を行った。佐賀市民芸術祭では中学・高校の吹奏楽部へ出演を依頼し、同時視聴が出来るように動画配信を実施した。
3)財務に関すること				
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	P18,21,22	A	オフィシャルパートナー企業は昨年と同じ11社。文化庁の感染症予防対策事業補助金125万円の交付を受けた。同庁の文化芸術活動支援事業補助金1,473万円の交付を宝塚歌劇公演で受けた。東与賀文化ホールでは(一財)地域創造の助成金を受けて公共ホール音楽活性化事業(公演とアクティビティ)を実施した。
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	P1,11～17		新型コロナの影響で、文化事業収入・利用料金ともに目標に達していない。文化事業では国などの補助金獲得、利用料金では会場の延期や変更により中止にせず入場者数、稼働率の減少を抑えることに努めた。また、佐賀市の文化芸術活動支援事業業務(補助金1,688万円)を行う事で施設利用者の確保に務めた。
⑩	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	P18～20		文化会館では、昨年度に引き続き臨時職員の1名減を継続して人件費の抑制に務めた。適切な空調管理により電気使用料の省エネに努めた。
自己評価(総合)	前回の委員会「R3年度の課題」	課題への対応状況		
	①コロナ禍で大規模公演(中央から著名人を招聘)が難しい場合、地元での小規模公演の実施回数を増やすことを考えてはどうか。 ②オフィシャルパートナーの拡大に取り組んでいくのはどうか。 ③音楽に偏りがちなアウトリーチの多様化を進めてほしい。 ④コロナ禍で消極的なアーティストへアプローチして活動の芽をつまない工夫をお願いしたい。 ⑤文化の継承や人材育成、貧困、福祉家庭などへの文化に接する機会の提供、企業、市民の支援への取組みができたらよい。 ⑥SDGsとのひも付けによるPRの発信にも積極的に取り組んでほしい。 ⑦コロナの影響で活動ができないときに何か普段は行えないような事を実施し、報告をしていただきたい。 ⑧集客効果の高い公演もバランスをとりながら積極的に行っていただきたい。 ⑨動画配信での公演実施はコロナ対策として期待したい。	① アウトリーチという形式ではあるが、1時間程度で参加者の楽器体験が出来る公演を地元演奏家を起用して行った。 ② 令和4年度以降、新たなオフィシャルパートナーを獲得できるようにPRに努めたい。 ③ ワークショップでは書道や大道芸を取り上げ、アウトリーチでは佐賀にわかを取り上げて実施した。 ④ アウトリーチやワークショップでの地元アーティスト起用や佐賀市民芸術祭での出演機会を企画して、芸術活動支援の取組みを引き続き行っていきたい。 ⑤ 令和4年度に市内児童養護施設の児童を本公演へ招待を計画している。 ⑥ 令和4年度は、SDGs17項目から文化芸術公演に関連付けた項目を出来るだけ実施していきたい。 ⑦・⑧ 佐賀市民芸術祭で電子チケットを導入し、YOUTUBEでの同時配信とアーカイブ配信を実施した。 ⑨ 収容人数制限解除を契機に、宝塚歌劇、イルカ、清塚信也、辻井伸行&三浦文彰、以上4公演を実施して約5,900名の集客を得た。		
	R3年度に高い実績を収めた事項	R4年度に向けた課題		
・佐賀市民芸術祭において、新型コロナウイルス感染症対策として電子チケットを導入した。 ・文化庁による「文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業」補助金125万円で赤外線カメラ、自動消毒器など感染症対策設備を拡充した。自主文化事業においては「文化活動の充実支援事業(AFF)」補助金1,473万を宝塚歌劇公演で申請を行い獲得する事ができた。	・2024国民スポーツ大会、全国障がい者スポーツ大会の会場となるSAGAサンライズパーク整備に向け、佐賀市と連携して施設整備を進める。 ・文化会館、東与賀文化ホールの文化事業の実施数及び収入の目標達成に努める。 ・国等の補助金活用の促進を図る。			

《 集計表 》 令和3年度実績評価 採点の結果 委員コメント

評価項目		満点	得点計	得点率	判定
1) 施設管理に関すること		210	160	76.2	B
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	70	58	82.9	-
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	70	52	74.3	-
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	70	50	71.4	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の点検修理等の施設の維持とコロナ感染対策を行う機器の導入などで安全対策は行われていると思うが、感染対策を行っていても来場者や利用者に伝わっていないのではないかと感じた。 ・利用者で、ある意味本当に意見がある人は何も言わない人が多い。声なき声の拾い上げをしてほしい。 ・公演の事前取材、当日取材を記事として発信するなど努力のあとが見られた。 ・SNSは他の媒体（Twitter、Instagram）も活用してほしい。 ・アンケートで「きっかけ」が様々なメディアとなっているので、宣伝の効果があると思われる。 				
2) 文化事業に関すること		280	202	72.1	B
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	70	48	68.6	-
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	70	48	68.6	-
⑥	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	70	52	74.3	-
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	70	54	77.1	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・内容に偏りが見られる。ホールを利用した展示会など、平日利用の促進を。 ・コロナの影響があってもワークショップやアウトリーチを実施されて好評なので、もっと回数を増やしていいのではと思う。 ・ワークショップ等に参加した子ども達のフォローが見られない。参加型にもう少し工夫が必要。 ・受け入れる学校を探して実施され、その内容も工夫されている。 ・地元出身芸術家のワークショップでの起用が多くよいと思う。動画配信の活用をもっと多くしてよいと思う。 				
3) 財務に関すること		210	154	73.3	B
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	70	58	82.9	-
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	70	48	68.6	-
⑩	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	70	48	68.6	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なメディアでの広告は効果があると思う。 ・「人件費の抑制に務めた」とあるが、その効果には疑問が残る。 				
◆総合		700	516	73.7	B
◆総合評価					
高い実績を収めた事項			令和4年度の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・施設管理について、コロナ感染防止の中での稼働率の確保、コロナ禍での対策を含め、様々な努力がなされている。 ・アウトリーチ・ワークショップ等も積極的に取り組まれ、市民の文化に触れる機会の増、書道の実施など新しい試みがみられた。 ・コロナ禍で目標の達成が難しい中、国等の助成の活用が見られた。 ・東与賀文化ホールは施設に応じた催し、イベントで役割を果たしておられると思います。 ・市民芸術祭での電子チケット、YouTubeでの動画配信など新しい取り組みも実施され、努力されている。YouTubeのアーカイブ機能はもっと利用できそうだと思う。 			<ul style="list-style-type: none"> ・オフィシャルパートナーの拡大に取り組んでほしい。 ・「R3年度の課題」がそのまま未着手で残っている項目が多かった印象を受けた。 ・コロナ禍の中でのイベント開催は大変だと思うが、ハイブリット型など、新たな発信も必要と思われる。魅力ある企画を工夫してほしい。 ・動画配信を活用してほしい。 ・お客さんの声がアンケートでしかわからないので、SNSのハッシュタグなどを活用して参加者の方の生の声を受け取ることができる仕掛けを作してほしい。 ・著名なアーティストの招へいは入場者、利用率の向上に結び付くが、市民が本当に求める芸術、少数でも中身の濃い内容を積み重ねることで、将来、文化会館、東与賀文化ホールのファンが増えていくような、ある程度長い目線での取り組みを期待したい。 ・指定管理者として財団を選定する積極的理由（独自色）をアピールする必要があると考えられる。（貴団体の強みなど） 		